

喫煙が皮膚への様な影響を及ぼすかについては、まだほとんど解明されていないのが現状ですが、統計学的には、喫煙との関連が指摘されているいくつかの皮膚疾患があります。以下、その代表的なものを紹介します。

### 1. 掌蹠膿疱症

主に中年の手掌や足底に無菌性の膿疱を生じる慢性再発性の病気です。この病気をもつほとんどの人が喫煙者であることが知られています。

県立広島病院皮膚科のデータでは、最近2年間にこの病気の治療に来られた23人のうち、23人全員が喫煙者であり、そしてこの病気が発症したのは喫煙をはじめて10～30年くらいの人が多かったことが分かっています。

この病気の根本的な原因はまだ不明であり、症状がひどくなると体や四肢にも膿疱や紅斑が生じたり、爪の変形や胸部などの関節痛が生じることもあります。治療には外用薬、内服薬、紫外線療法などがあり、これらの方法である程度よくなりますが、完治するにはかなりの年月がかかります。

写真はスモーカー（20本×10年）の女性（20歳代）にみられた掌蹠膿疱症の例です。



手掌（左）と足底（右）

## 2. 尋常性乾癬

主に中年の頭部や四肢、体などに、鱗屑（りんせつ）を伴った紅色局面が多発する、慢性再発性の皮膚の病気です。この病気の原因や病態も今のところ完全には解明されていませんが、喫煙者に多いことが指摘されています。

県立広島病院皮膚科のデータでは、最近2年間にこの病気で治療に来られた34人のうち、男性は90%、女性は43%の方が喫煙者であり、やはりこ

の病気にかかった人の喫煙率は高いという結果になっています。

尋常性乾癬の症状がひどくなると、人によっては痒みが生じたり、爪の変形が生じたり、関節痛を伴うこともあります。これらの症状は外用薬、内服薬、紫外線療法などである程度よくなりますが、治療を中止すると再燃してくることがほとんどです。

写真はスモーカー（20本×29年）の男性（50歳代）にみられた尋常性乾癬の例です。



体幹（左）と下肢（右）